

1.2. ミレニアム・プロジェクトの目標：2004年までの5カ年計画

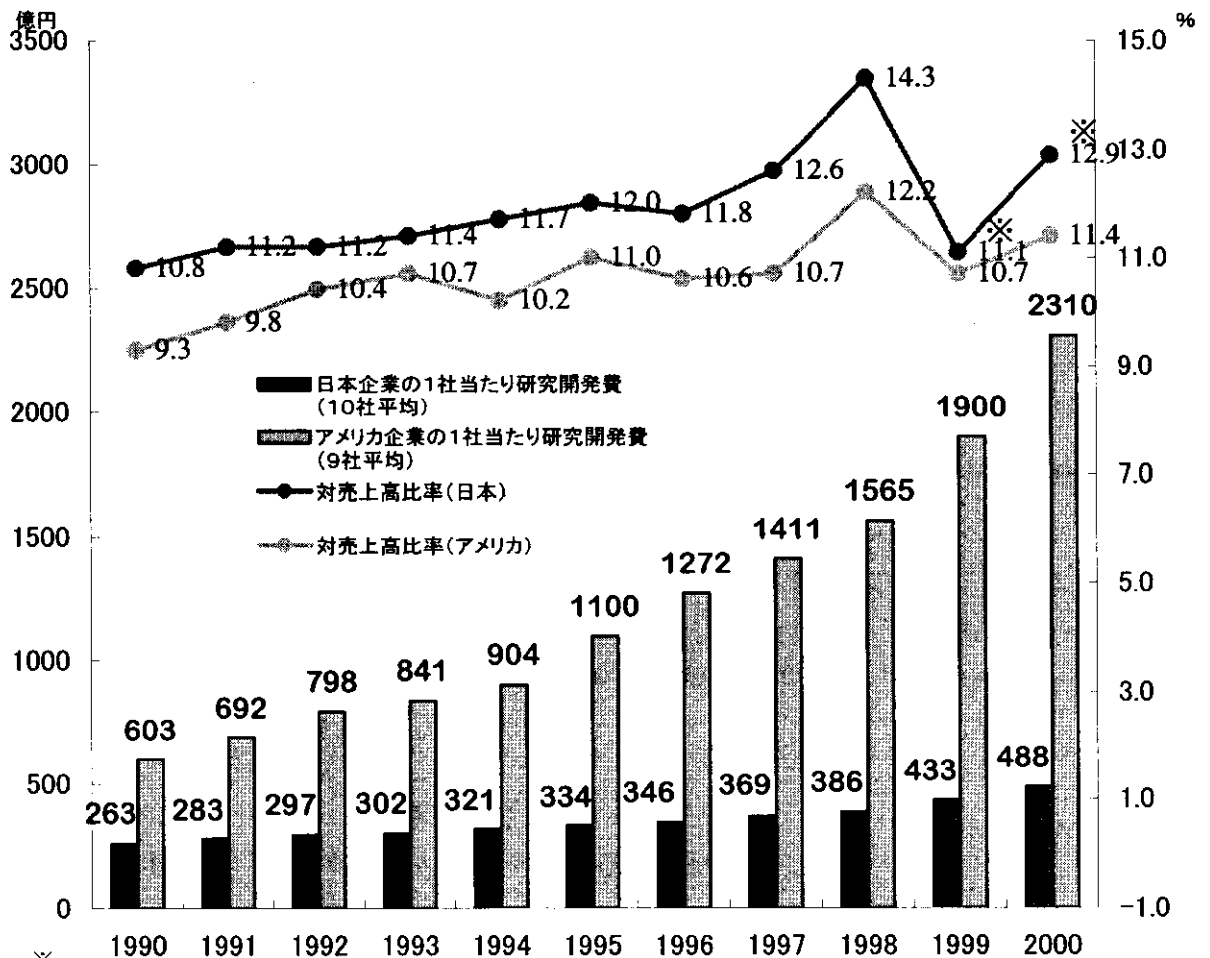
〔ヒトゲノム解析を突破口とした5大疾患の克服〕

- ① 痴呆関連遺伝子を20以上発見し、入院患者数を20%削減できる新薬を開発
- ② がん関連遺伝子を50以上発見し、抗ガン剤による副作用を50%軽減、5年間生存率を20%改善する新薬を開発
- ③ 糖尿病・高脂血症関連遺伝子を30以上発見し、糖尿病の入院患者を20%削減し、合併症を50%削減する新薬を開発
- ④ 高血圧等循環器疾患関連遺伝子を30以上発見し、脳卒中の受診率を20%削減する新薬を開発
- ⑤ 気管支喘息等免疫・アレルギー疾患関係遺伝子を20以上発見し、喘息の死亡者数を20%削減する新薬を開発

1.3. メディカル・フロンティア戦略の目標：2005年までの5カ年計画

- ① がん患者の5年生存率（治癒率）の20%改善
- ② 心筋梗塞・脳卒中の死亡率を25%低減（年間5万人以上）
- ③ 自立している高齢者の割合を、5年後に90%程度（現在は約87%）に高め、疾病等により支援が必要な高齢者を70万人程度減らすこと

1.4. 研究開発費及び研究開発費の売上高に対する比率の日米比較



※ 1999年、2000年は連結ベース

対売上高研究開発費率＝総研究開発費／総売上高対象企業

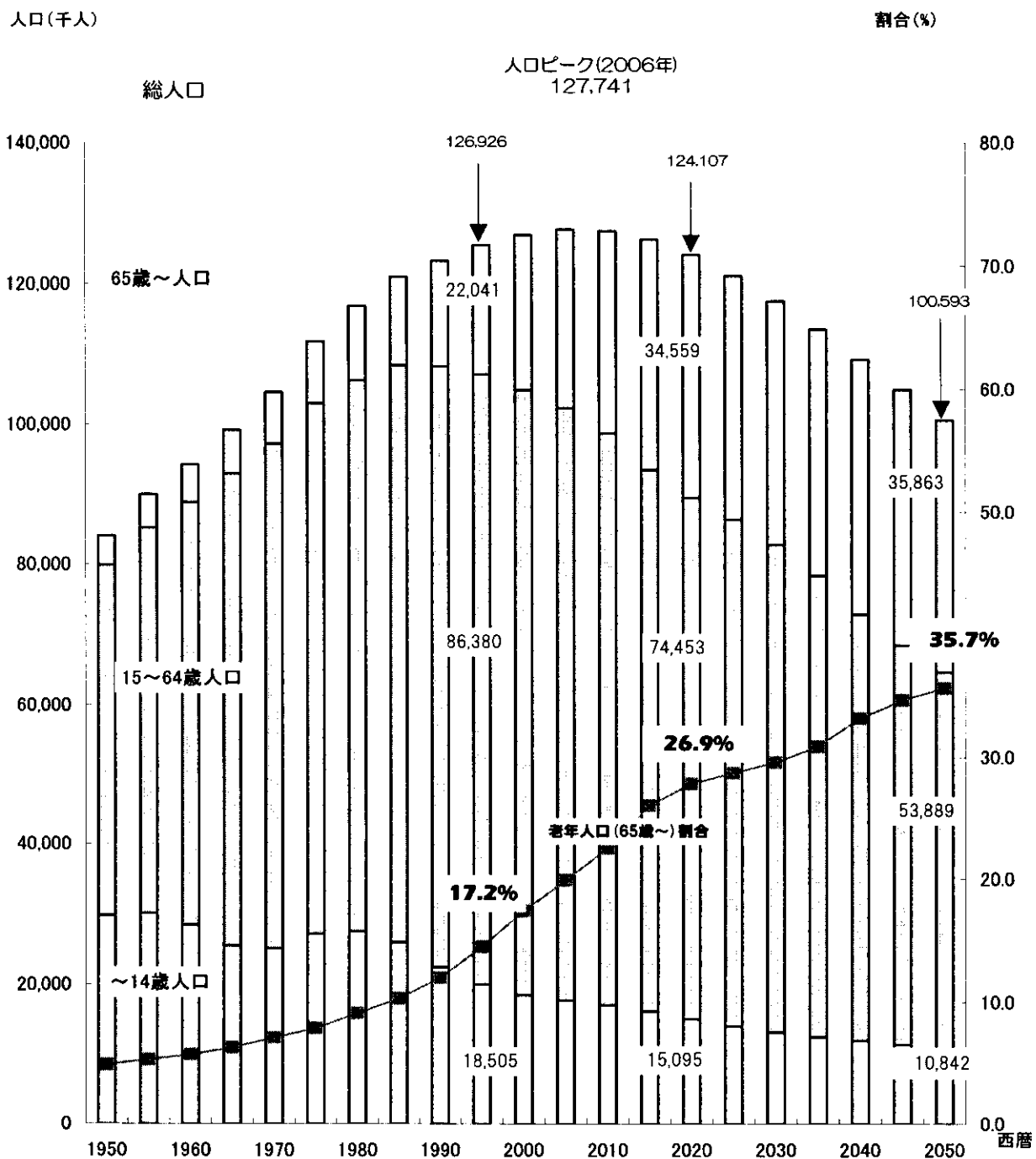
(日本) 武田、三共、山之内、第一、大正、エーザイ、塩野義、藤沢、中外、田辺

(米国) アボット、アメリカン・ホーム・プロダクツ、プリストル・マイヤーズ・スクイブ、

イーライ・リリー、ジョンソン & ジョンソン、メルク、ファイザー、ファルマシア、シェリング・プラウ

日本製薬工業協会 「DATA BOOK 2002」

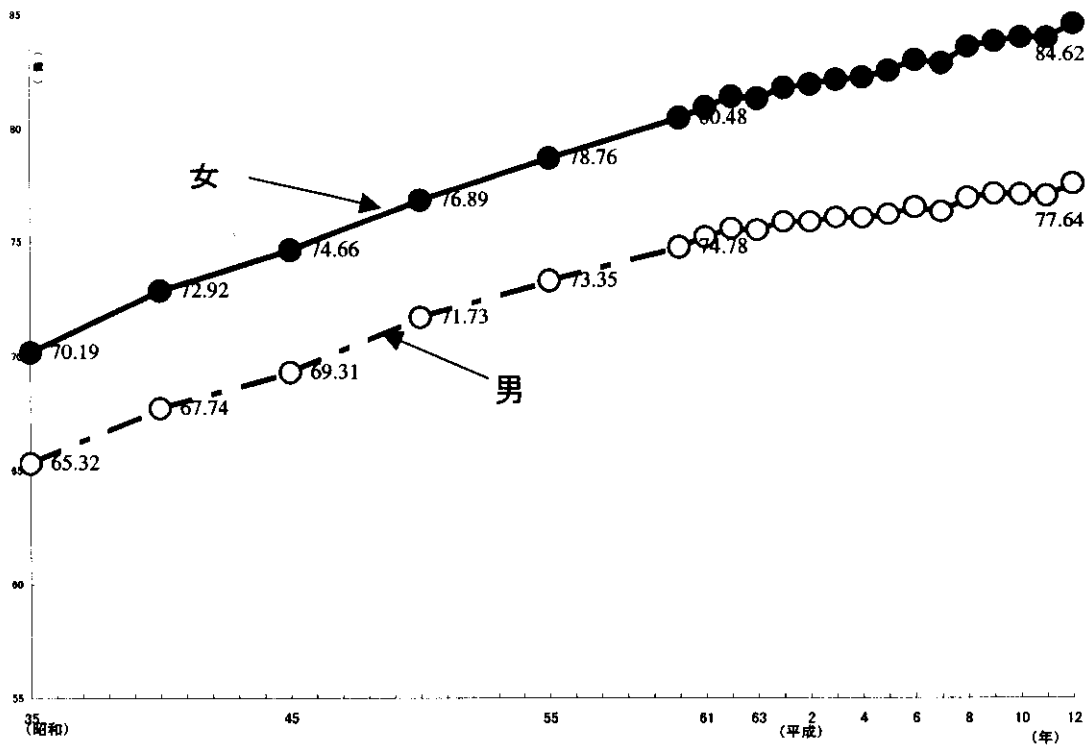
15. 高齢化の推移と将来推計 (1950~2050年)



1995年まで：総務庁「国勢調査」、

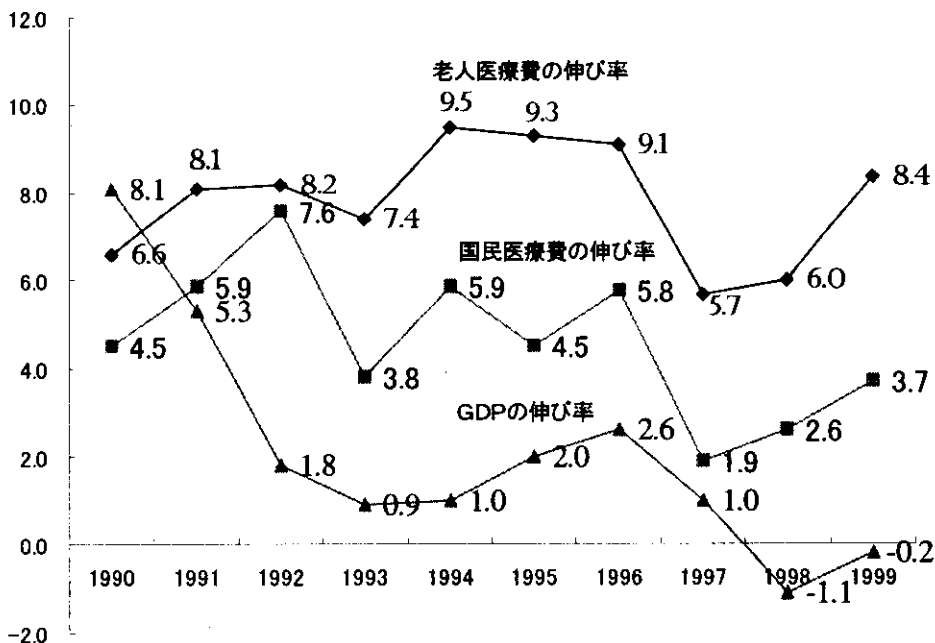
2000年以降：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(中位推計)

16. 平均寿命の推移



厚生労働省「2001年簡易生命表」

17. 国民医療費・老人医療費の推移と経済の動向

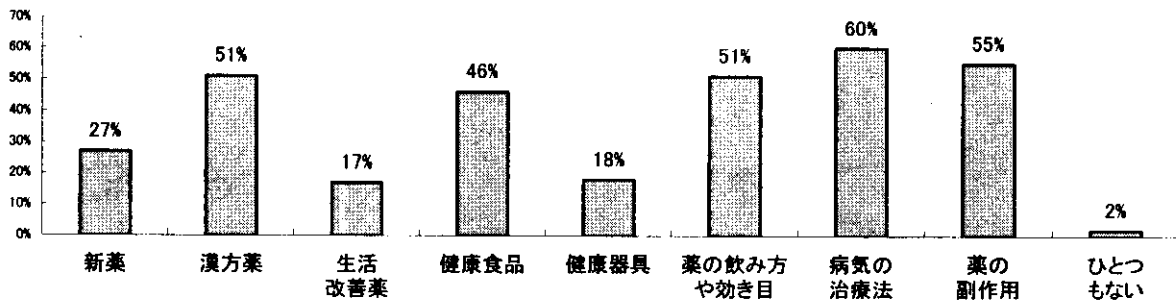


過去10年間の年平均伸び率

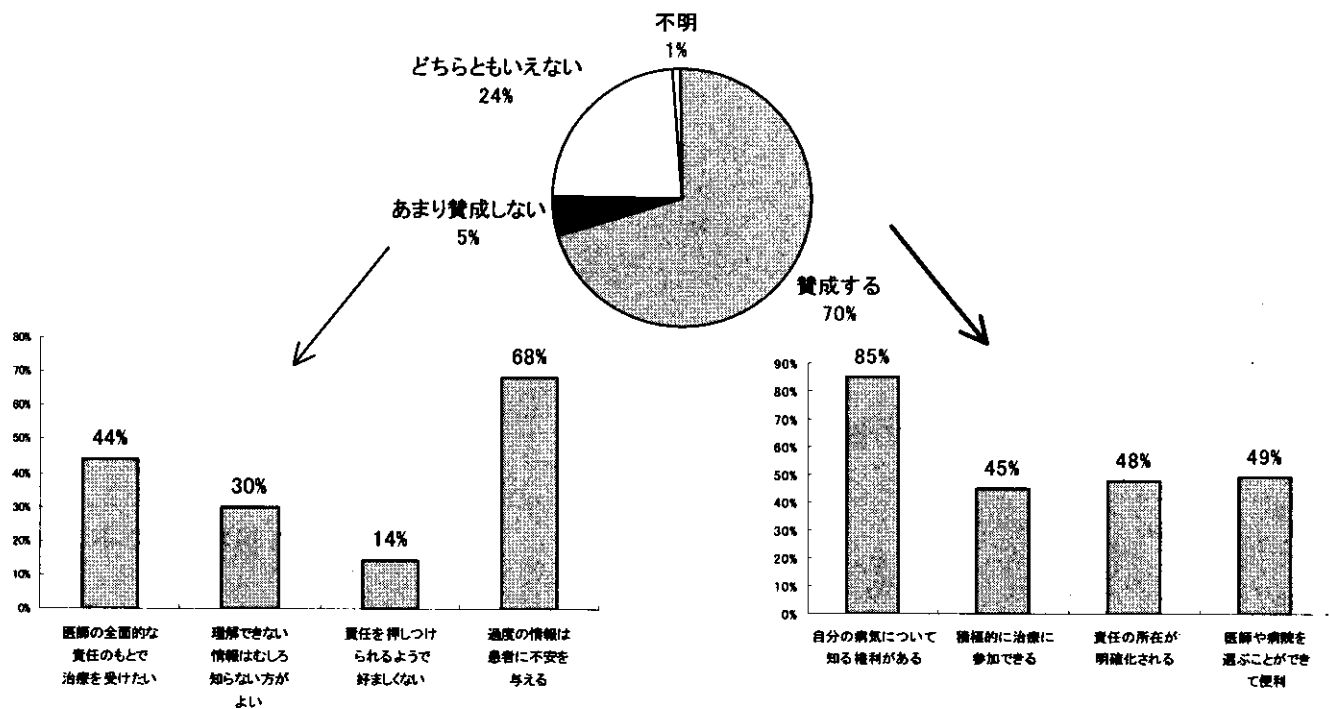
国民医療費 (若人、老人を含む全体の医療費)	4.6%
老人医療費	7.8%
高齢者数	4.2%
GDP	2.1%

内閣府「国民経済計算」 厚生労働省「国民医療費」

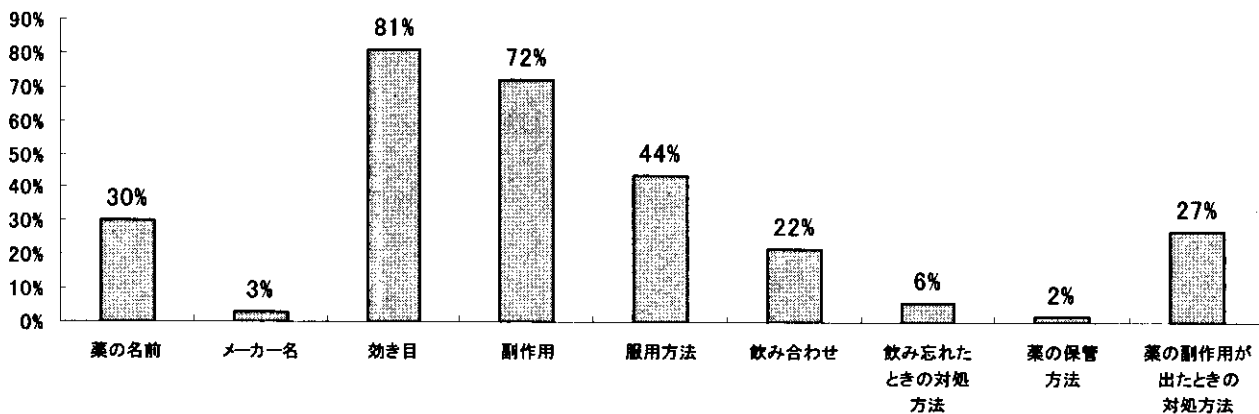
18. 国民の関心の強い健康情報



19. 国民の医療全般に対する情報開示への考え



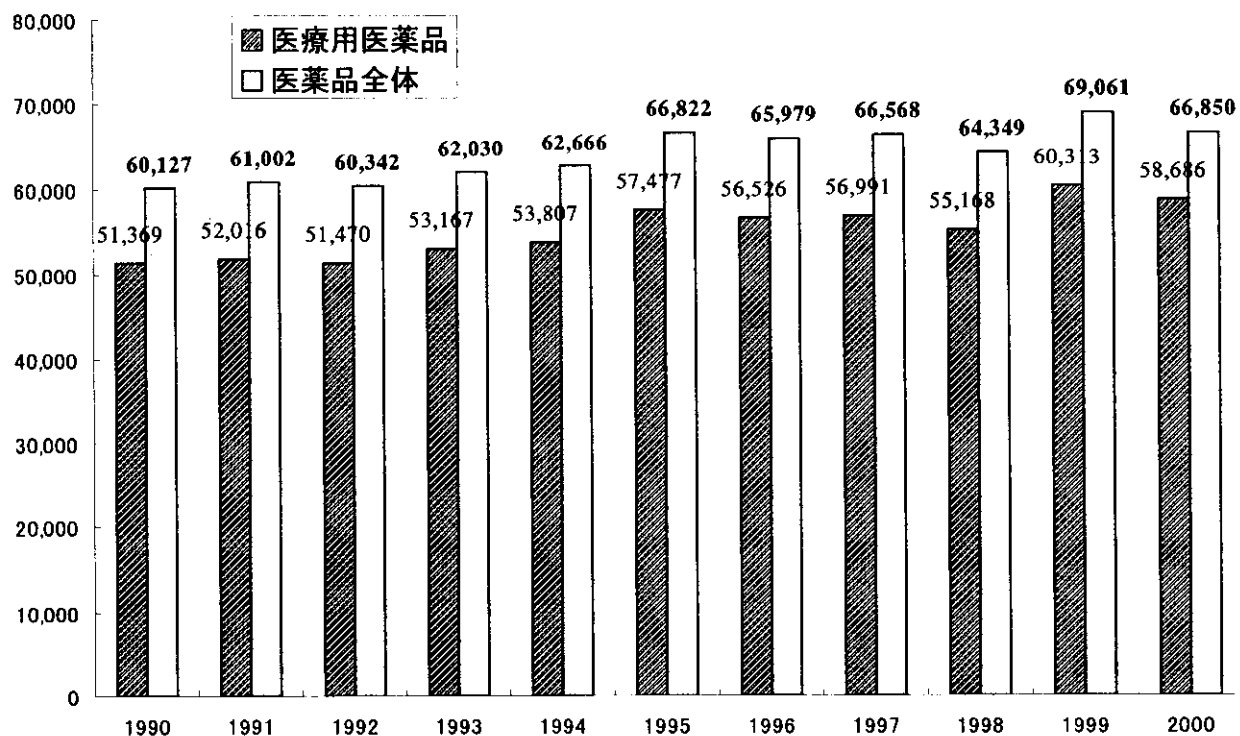
20. 薬をもらう時に国民が知りたい情報



17 から 19 まで「医師・一般市民の医薬品および医療に関する意識調査 (2000.3)」日本 RAD-AR 協議会

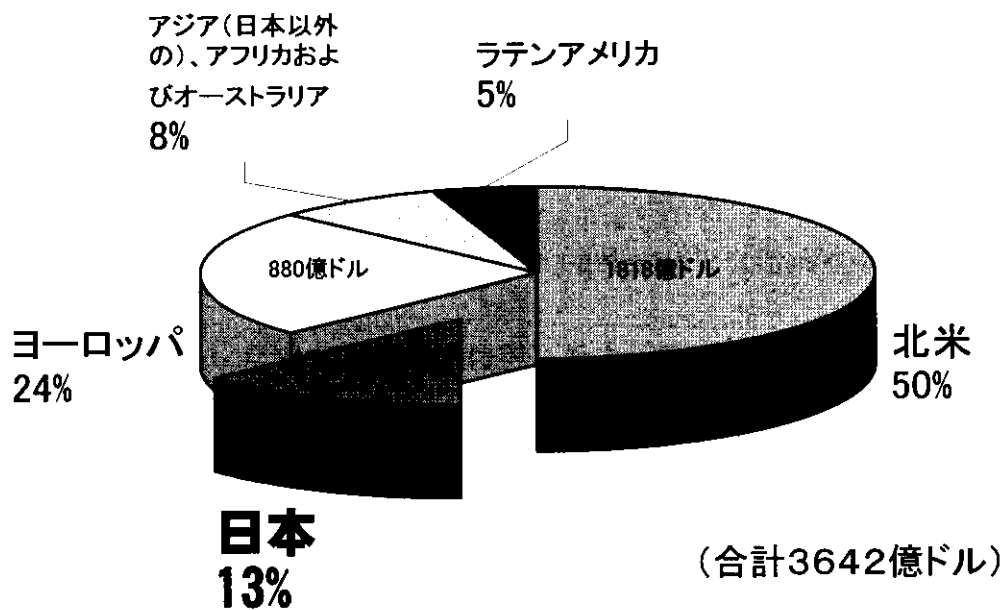
Ⅲ. 医薬品産業の現状と課題

1. 医薬品市場規模の推移



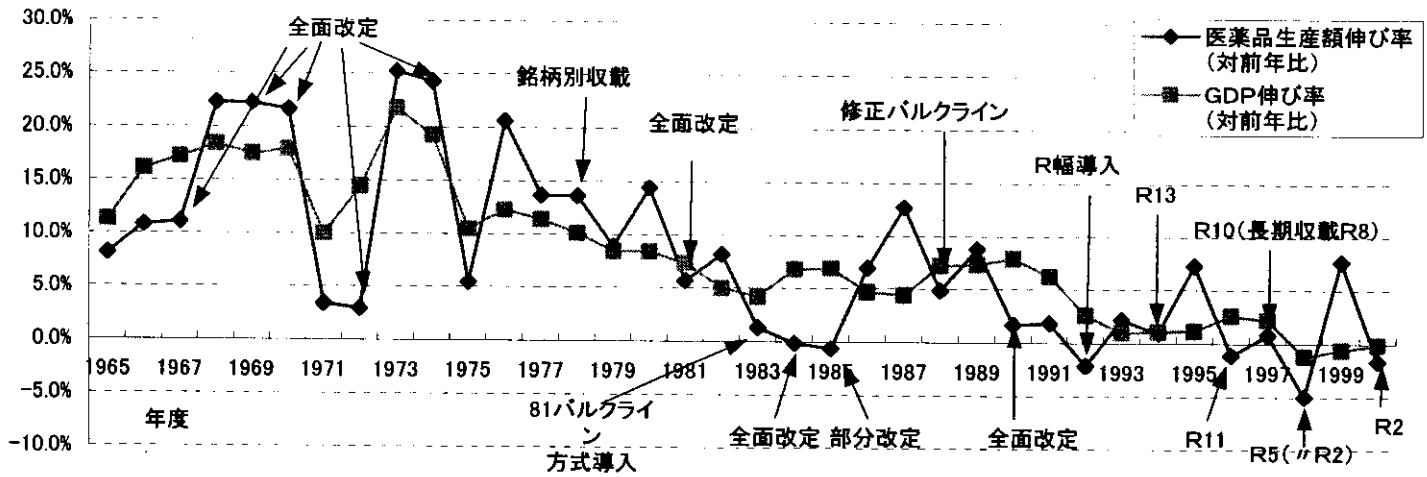
※医薬品市場規模＝出荷金額－輸出金額
厚生労働省「薬事工業生産動態統計」

2. 世界市場に占める日本市場の規模 (2001年)



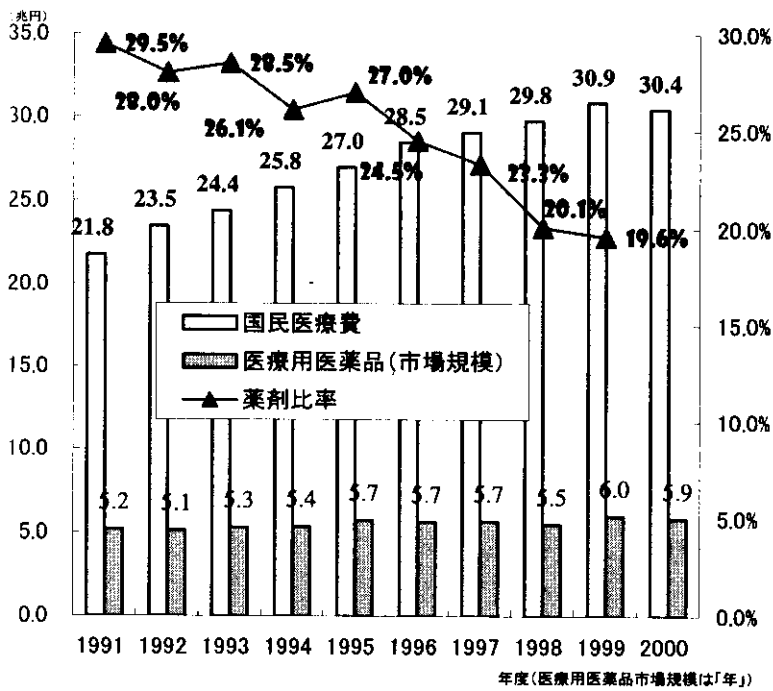
IMS HEALTH, World Review 2002

3. 医薬品生産額の伸び率とGDPの伸び率の推移



厚生労働省「薬事工業生産動態統計」、内閣府「国民経済計算」

4. 国民医療費と薬剤比率の推移



厚生労働省「薬事工業生産動態統計」「国民医療費」等

5. 薬価改定率の推移

改正年月日	品目数	引下げ率		備考(改定方式等)
		薬剤費ベース	医療費ベース	
昭和42 10.	6,831	10.2%		— 全面
44 1.	6,874	5.6%		2.4% 全面
45 8. 1	7,176	3.0%		1.3% 全面
47 2. 1	7,236	3.9%		1.7% 全面
49 2. 1	7,119	3.4%		1.5% 全面
50 1. 1	6,891	1.55%		0.4% 全面
53 2. 1	13,654	5.8%		2.0% 全面(銘柄別取載方式に移行)
56 6. 1	12,881	18.6%		6.1% 全面
58 1. 1	16,100	4.9%		1.5% 部分(81BL方式導入)
59 3. 1	13,471	16.6%		5.1% 全面
60 3. 1	14,946	6.0%		1.9% 部分
61 4. 1	15,166	5.1%		1.5% 部分
63 4. 1	13,636	10.2%		2.9% (算定方式修正)
平成元 4. 1	13,713	+2.7%	+0.65%	(消費税分引上げ)
2 4. 1	13,352	9.2%		2.7% 全面
4 4. 1	13,573	8.1%		2.4% 加重平均方式導入 全面(R15)
6 4. 1	13,375	6.6%		2.0% 全面(R13)
8 4. 1	12,869	6.8%		2.6% 全面(R11)
9 4. 1	11,974	4.4%		1.27% 全面(R10)(消費税率引上げ分)
10 4. 1	11,692	9.7%		2.7% 全面(R5)
12 4. 1	11,287	7.0%		1.6% 全面(調整幅2)
14 4. 1	11,191	6.3%		1.3% 全面(調整幅2)

厚生労働省

6. 国内総生産 (GDP) に占める医薬品生産 (粗付加価値) の割合 (平成7年)

<単位: 10億円>

	1990年	1995年
GDP	438,867	497,587
医薬品	2,581	2,698
対GDP比	0.58%	0.54%

総務省「産業関連表」、内閣府「国民経済計算」等

7. 世界の上位10市場の今後の成長予測 (2000年)

(単位: 10億ドル)

	売上高 2000年	予測売上高 2005年	予測成長率(年率) 2000~2005年	マーケットシェア 2005年
アメリカ	150	263	11.8	60.5
日本	58	66	2.3	15.1
ドイツ	17	24	7.5	5.6
フランス	16	22	6.0	5.0
イギリス	11	16	8.3	3.7
イタリア	11	16	8.2	3.6
カナダ	6	10	10.7	2.4
スペイン	6	10	9.9	2.3
オーストラリア	3	5	9.3	1.1
ベルギー	2	3	5.6	0.7
合計	281	434	9.1	100.0

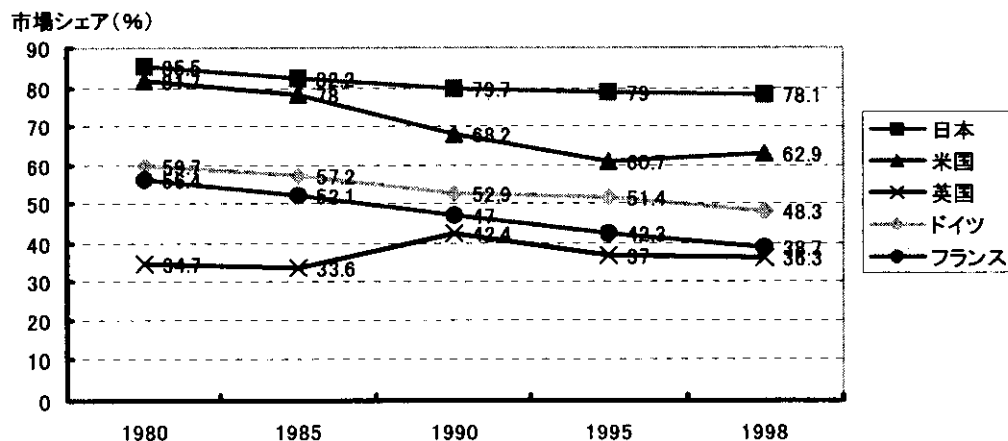
IMS HEALTH, Pharma Prognosis

8. 医薬品薬効分類別国内出荷金額シェア

1990年		2000年	
薬効大分類	シェア (%)	薬効大分類	シェア (%)
循環器官用薬	14.8	循環器官用薬	18.2
抗生物質製剤	11.2	消化器官用薬	8.6
中枢神経系用薬	9.8	中枢神経系用薬	8.5
消化器官用薬	9.3	その他の代謝性医薬品	8.3
その他の代謝性医薬品	8.3	外皮用薬	6.1
外皮用薬	5.8	抗生物質製剤	6.0
ビタミン剤	5.1	血液及び体液用薬	5.5
呼吸器官用薬	4.8	生物学的製剤	4.1
診断用薬	3.6	感覚器官用薬	3.6
血液及び体液用薬	3.2	ビタミン剤	3.4
その他	24.1	その他	27.1

厚生労働省「薬事工業生産動態統計」

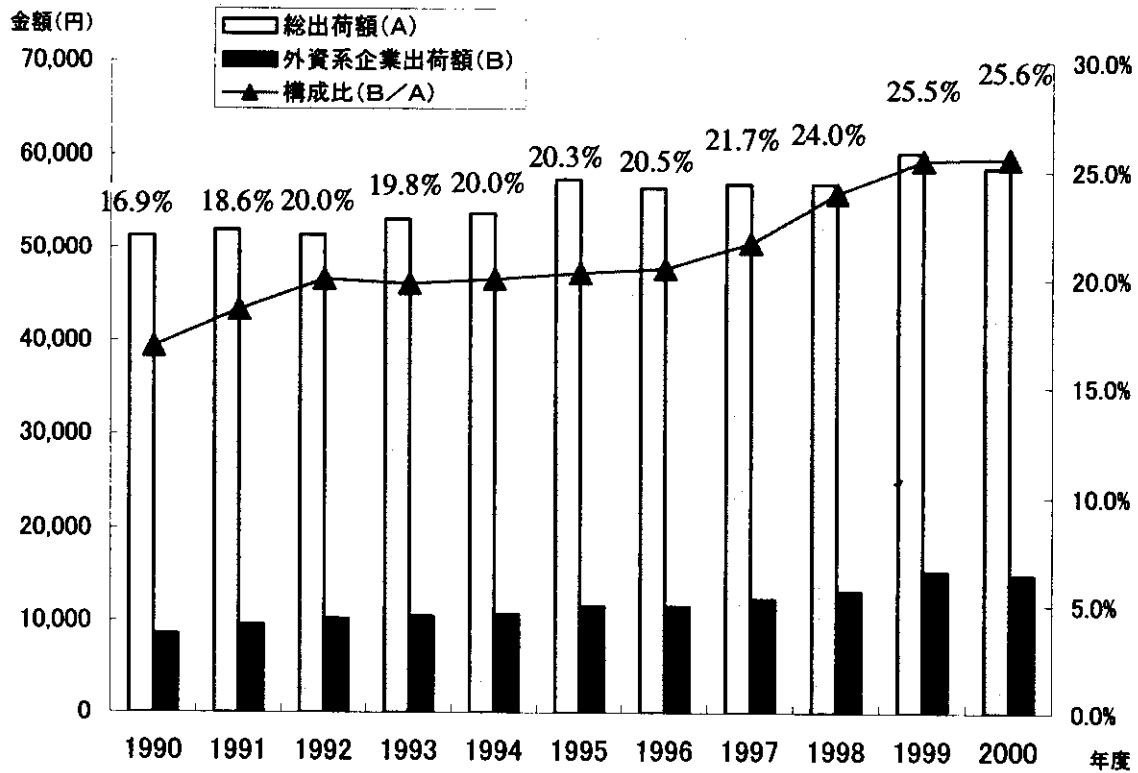
9. 自国企業のシェアの推移



「IMS WORLD REVIEW」

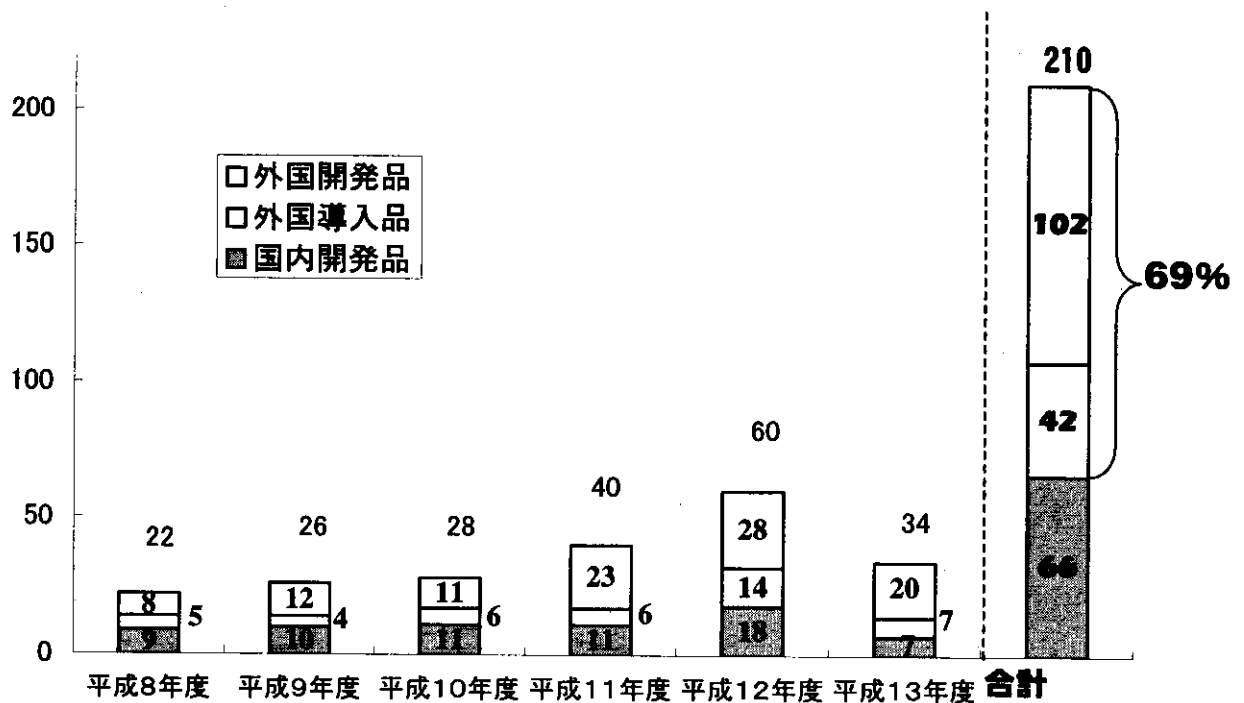
日本製薬工業協会医薬産業政策研究所「我が国の製薬産業」

10. 外資系企業出荷金額の推移



厚生労働省「薬事工業生産動態統計」

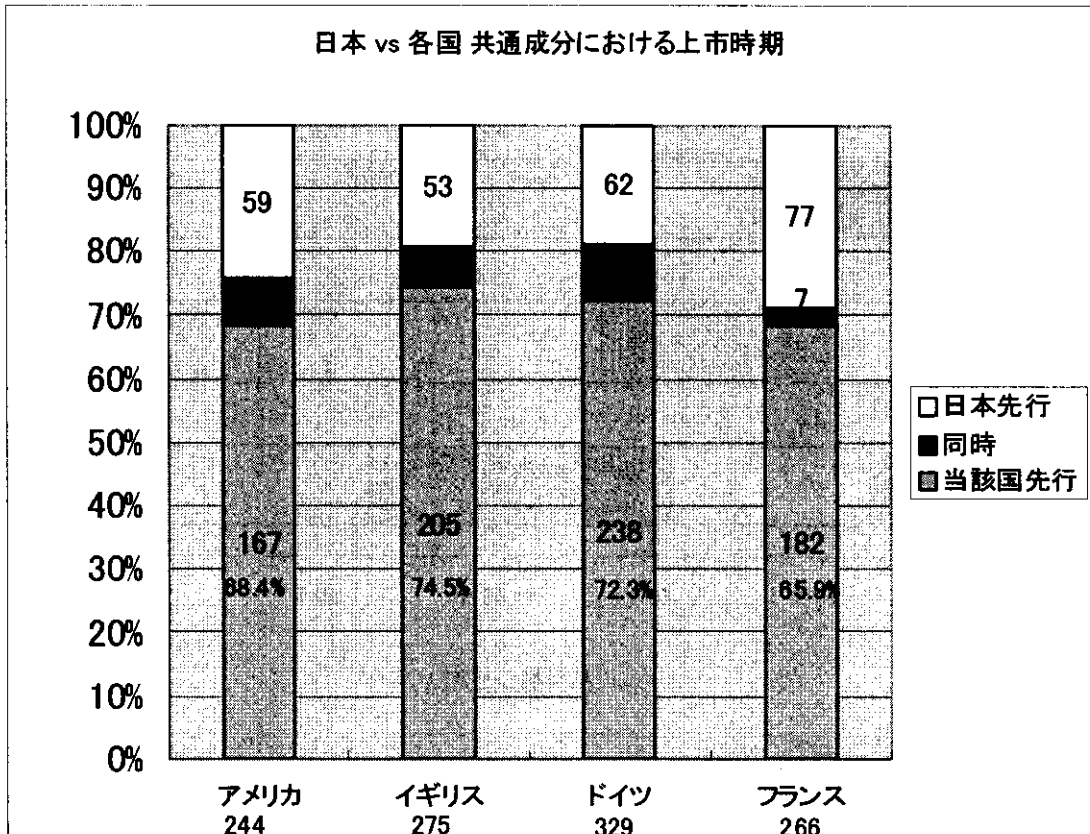
11. 平成7年中医協建議以降収載された新薬の内訳（再掲）



厚生労働省

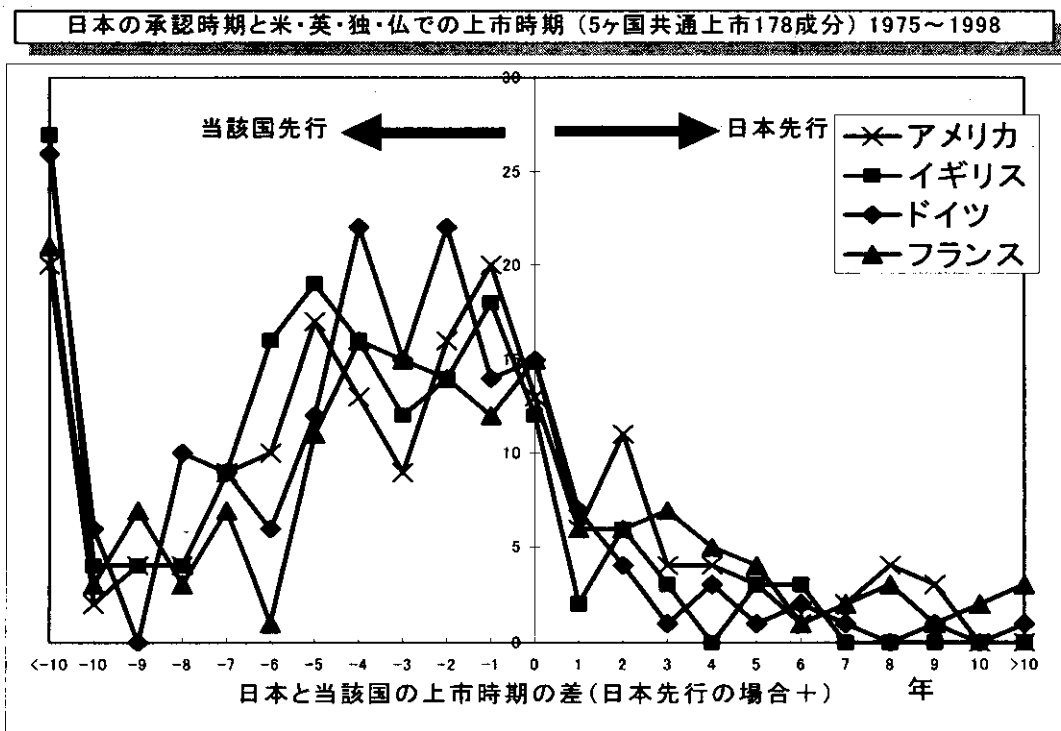
1 2. 日本と各国との共通上市成分の上市時期のずれ

※1975～1998 に上市された 810 成分のうち 584 成分を対象



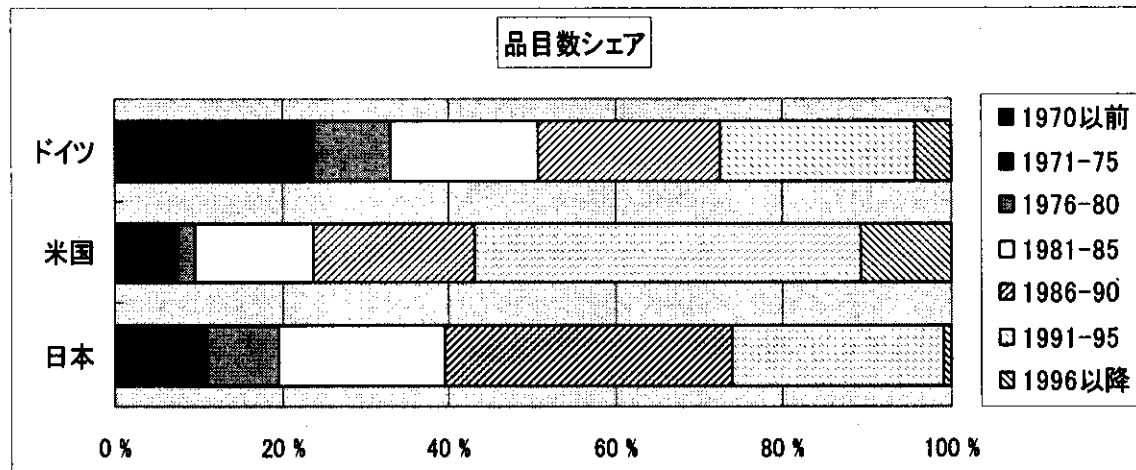
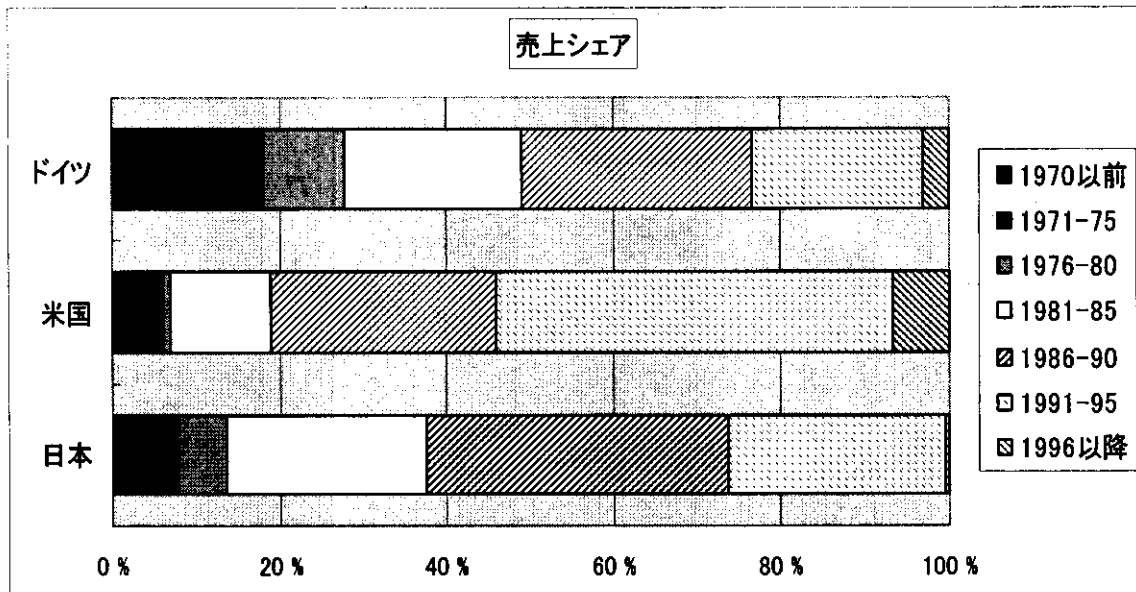
日本製薬工業協会医薬産業政策研究所「我が国の製薬産業」

1 3. 5 力国全てに共通する上市成分の日本との上市時期のずれ



日本製薬工業協会医薬産業政策研究所「我が国の製薬産業」

1.4. 1997年の売上ランキング上位品目の上市年別シェア



(出所) 日：「製薬企業の実態と中期展望」、米国：「RED BOOK 1998」 ドイツ：「Arzneiverordnungs-Report 1998」
 注) 売上ランキングはジェネリックを除いて作成している。

日本製薬工業協会医薬産業政策研究所「我が国の製薬産業」